概要資料

AI駆動開発基盤
ANDY

非エンジニアのための、AI駆動開発プラットフォーム

現場が基幹データで、安全に業務アプリを作り、本番に届ける

ANDY 概要資料

KOS LLC（合同会社KOS） | 2026年11月

非エンジニア向け

品質ゲート 7段

閉域・参照専用

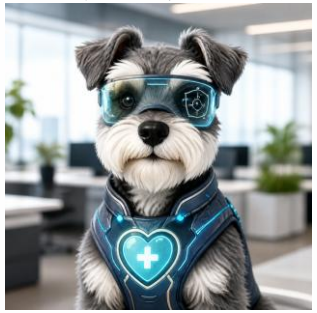
2ヶ月PoC



画面はイメージです（想定画面）

ANDYとは

現場に伴走し、
対話で業務アプリを作り、
検査を通して本番に届ける
AI開発エージェント



会社概要

基幹と現場を知る少数精鋭で、AI駆動開発を製品にして届けます

合同会社KOS（KOS LLC）の会社情報とあゆみ

会社情報

社名	合同会社KOS（KOS LLC）
ブランド	Kreative Orchestration Studio
設立	2024年9月6日
本店	東京都千代田区平河町2-5-3 MIDORI.so 5F
事業	AI駆動開発のコンサルティング・研修／ANDYの開発・提供 音楽事業（アーティストのプロデュース）
決算期	8月（第3期：2026年9月～2027年8月）

あゆみ

- 2024.09 KOSを設立
- 2025.09 本店を千代田区平河町へ移転
- 2026.06 藤田医科大学でANDYの原型が稼働
- 2026.07 ANDYを製品として一般販売へ
- 2026.08 企業向けにANDYのPoCを開始

AI駆動開発の方法論を、ANDYという製品にして提供する会社です。

課題

基幹のデータはあるのに、現場が使えるアプリにならない

基幹システムを持つ企業がAIを業務に使うときに、必ず突き当たる3つの壁

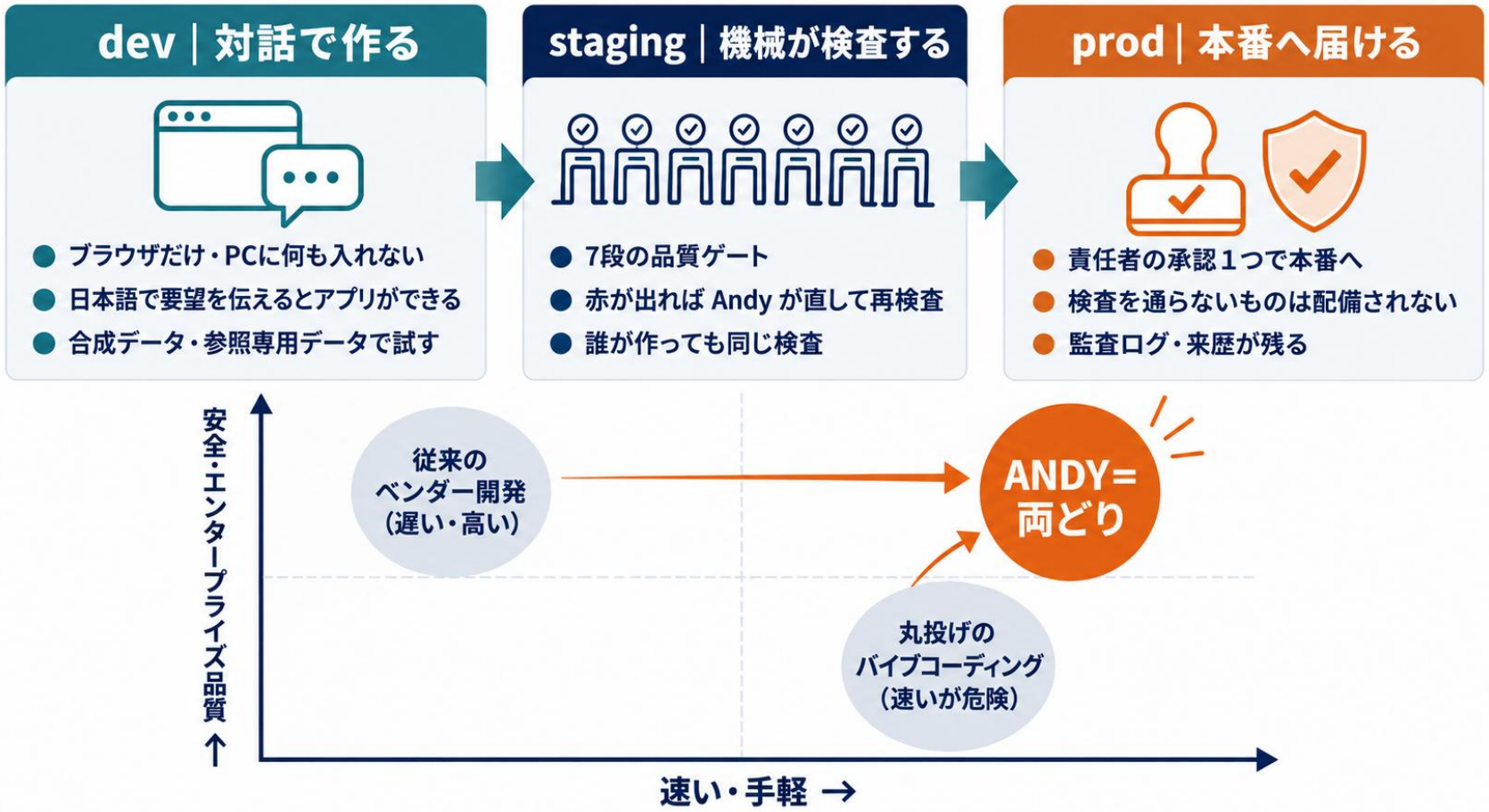


現場の「作りたい」と、会社の「守りたい」の間の溝をANDYが埋めます。

ANDYとは

ANDYは、現場が対話で作り、機械が検査し、本番に届ける開発基盤

非エンジニア向けのAI駆動開発プラットフォーム。作るところは自由、本番に上げるときだけ厳しく



速くて手軽なバイブコーディングを、エンタープライズ品質のまま本番に届けます。

画面イメージ

購買担当が対話で「在庫アラート」を作り、7段の検査を通して本番へ

購買部の担当者が、ブラウザだけで基幹の参照専用データからアプリを作る流れ（画面はイメージ）



1 対話で作る

担当者が日本語で要望を伝えると、使うデータ・画面・機密性の扱いを整理してアプリを作る

2 機械が検査する

本番候補は7段の品質ゲートを通る。赤が出ればAndyが直して再検査

3 承認は1つ

本番への反映は責任者の承認1つ。人の出番はここだけ

コードを書かなくても、基幹のデータで動くアプリが現場の手で作れます。

品質ゲート

本番の手前に、7段の品質ゲート ― 誰が作っても同じ検査を通る

バイブコーディングは速い。だが、そのまま本番に出すと4種類の事故が起きる。機械の関所で潰す



4種類の事故 → 対応する検査

①	正しく動かない → UT／staging で通し稽古
②	脆弱性の同梱 → Scan／固めた土台で作り直し
③	秘密の漏れ込み → SAST が直書きの鍵を検出
④	外部からの攻撃 → 閉域ネットワーク／署名検証

168 → 0

脆弱性の指摘（実測）・コードは1行も直さず

検査を通らないものは、配備されない。人の出番は本番に出す承認の1点だけです。

ガバナンス

AIには「お願い」と「物理制御」の2層で線を引く

基幹のデータは貴社クラウドから出さず、AIには「お願い」と「物理制御」の2層で線を引く

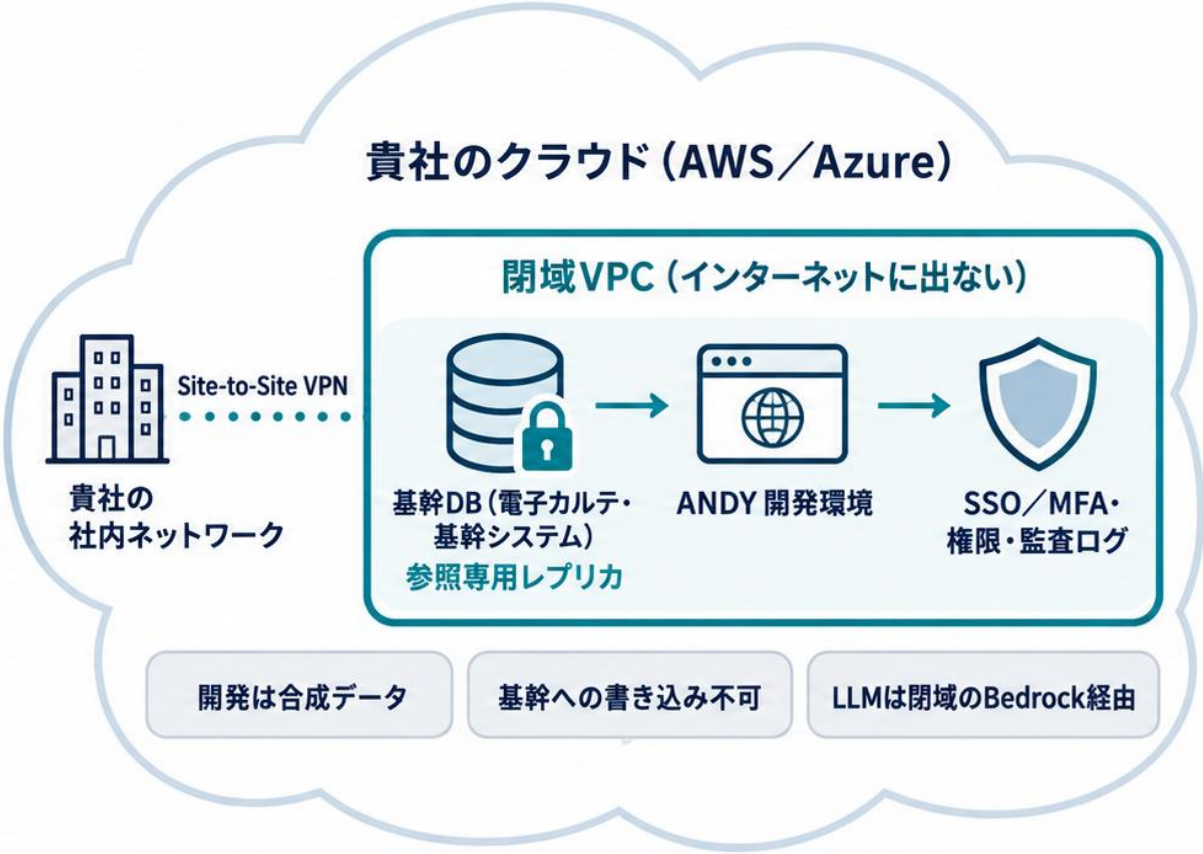
AIへのお願い（ソフト制御）＝生産性を上げるガイド

- Skill＝品質規約・作業手順を読ませる
- 社内ポリシー・ガイドラインを組み込む
- ANDYが対話で操作導線をガイド

お願いだけに頼らない

物理制御（ハード制御）＝越えてはいけない線を止める

- Hooks＝破った瞬間に操作そのものを止める
- 危険操作・未検査の成果物・機密の混入を実行前にブロック
- 入力・行動・出力の3層に制御点



お願いだけに頼らず、越えてはいけない線は物理的に止めます。

藤田医科大学での構成

本番の手前に、検査専用の Staging を置く3環境構成

本番の手前の Staging を Red Hat OpenShift（ROSA）に置き、誰が作っても同じ7段の検査を通す

Develop ｜ つくる



- ブラウザのWeb IDEでVibe Coding
- 合成データ・参照専用データで試す
- PCに何も入れない

Staging ｜ 整える

Red Hat OpenShift（ROSA）



- コンテナを作り直し（リビルド）
- SBOM・脆弱性検査・署名
- AIがテストを書き、直し、再検査
- 誰が作っても同じ7段の検査

Production ｜ 届ける



- 責任者の承認1つで本番へ
- 検査を通らないものは配備されない
- 監査ログ・来歴が残る

自由に作る ｜ 本番の手前だけ厳しく ｜ 人の出番は承認の1点

職員が作ったアプリは、Staging の検査を通ったものだけが本番に届きます。

ユースケース

現場が作る業務アプリの例 — 基幹データに連携する5本

いずれも非エンジニアの担当者が、ANDYと対話しながら作れる業務アプリです（期間は当社の目安）



「作りたい人」が作れると、社内のアプリは資料作成止まりから業務の道具になります。

ユースケース

職員が作った医療アプリの例 — 藤田医科大学で現場が作ったもの

いずれも非エンジニアの職員が、ANDYと対話しながら作った業務アプリです



「作りたい人」が作れると、院内のアプリは資料作成止まりから業務の道具になります。

実績

数百人月規模の基幹モダナイズと、現場が開発できる基盤を作ってきました

エンタープライズの基幹と現場、両方で動かしてきた実績

大手製造業｜基幹モダナイズ



- 4桁億円規模の基幹をCOBOLから移行
- テックリード／アーキテクトとして主導
- AI駆動開発基盤を設計～推進
- 数百人月規模のモダナイズ経験

大手SIer｜AI駆動開発の導入



- VB.NET／.NET系の業務システムに導入
- 技術リードとして開発工程を再設計
- 開発工数 30%以上の削減を実証
- スキル定義・評価制度・研修を設計

藤田医科大学｜AI開発基盤の稼働



- 職員1万人規模の医療機関で稼働中
- 基幹DB 102テーブルを参照専用で連携
- 非エンジニアの職員がアプリを内製
- ANDYのモデルとなった基盤

30%以上
大手SIerで実証した開発工数の削減

168→0件
脆弱性の指摘をコード改修なしで解消

13タスク
7段のCI/CD検査を完走（2026年7月）

102テーブル
基幹DBから参照専用で連携（日次 約1GB）

基幹の中身を知っているチームが、現場が作れる基盤を提供します。

導入状況

藤田医科大学病院で稼働中。10業界の企業とも検証を進めています

検証先は守秘義務を負う限られた企業のため社名は非公開。業界のみ記載しています

稼働中

大学病院（藤田医科大学）
職員1万人規模・2026年6月から稼働中
稼働中

検証中（10業界）

- 人材サービス（派遣）
- 眼鏡小売チェーン
- 自動車ディーラー
- 自動車メーカー系サービス
- 印刷・情報サービス
- 信販・金融
- 総合商社
- 認証基盤サービス
- 医薬品卸グループ
- 医療検診サービス

医療の現場で動いた基盤を、業界を越えて検証しています。

導入の進め方

2ヶ月のPoCで「現場が作れる」ことを証明してから、本番へ

PoC → 本番構築 → 横展開の3段階。まず1部門・1業務から

2ヶ月PoC

- 対象業務を1つ選ぶ
- 参照専用データに接続
- 現場がアプリ約5本を作成・試験運用
- 最終報告で本番化を判断

本番構築

- 貴社クラウドに本番環境を冗長構成
- 審査基盤（品質ゲート）を接続
- 基幹連携・SSO・監査ログ
- 承認フローを設定

横展開

- 部門とアプリを増やす
- 開発者シートを追加するだけ
- アプリ・規約が資産として蓄積
- 利用量・コストを毎月レポート

PoC 8週間

1〜2週目 診断	3〜4週目 接続・環境提供	5〜7週目 試験運用	8週目 最終報告
業務選定・DB特定・接続設計	開発環境の提供・アプリ作成開始	約5本を運用・効果測定	本番化の判断・概算の提示

費用は構成と規模で決まります。面談で貴社向けにお見積りします。

構成の選び方

プラン比較 — 審査基盤を当社のSaaSに置くか、貴社AWS内に置くか

開発環境と本番環境（冗長構成）は両プランとも貴社AWS。違いは審査基盤（品質ゲート）の置き場所です

観点	ANDY GATE SaaS 審査基盤は当社SaaS	ANDY GATE Ultimate 審査基盤も貴社AWS
審査基盤の置き場所	○ 当社が運用するSaaS（複数社で共用）	○ 貴社AWS内の専有クラスタ
品質・セキュリティ審査	○ テスト・脆弱性・シークレット・ポリシー	○ 同じ審査ゲートを専有で利用
個人情報を含むデータでの審査	× 合成データ・テストデータで審査	○ 貴社AWS内で審査まで完結
貴社独自の審査ルールの追加	△ 標準ルールの設定範囲内	○ 貴社専用のルールを追加できる
他社とのリソース分離	△ テナント単位で分離（基盤は共用）	○ 完全専有
審査能力の増強	○ 当社側で調整	○ worker 単位で増減
審査基盤の運用・更新	○ 当社が運用（貴社の作業なし）	△ 貴社AWSで稼働（更新は当社が配信）
審査基盤のクラウド費用	○ 基盤利用料に含む	△ 貴社AWSへ直接請求
向いているケース	○ 審査に個人情報を使わない。早く安く始めたい	○ 本番で個人情報を扱う。審査・監査を自社内で完結

○ できる　△ 条件つき　× できない。開発環境・本番環境・開発者シート・LLM上限管理・SSO／監査ログは両プラン共通です。

審査に個人情報を使うなら Ultimate。本番以降の費用は、面談で概算をお出しします。

次のステップ

対象業務を1つ選ぶところから始めます

初回MTGで対象業務とデータ境界を確認し、2ヶ月PoCの診断へ進む

1



対象業務を1つ選定

現場が「作りたい」と言っている
業務を1つ。小さくてよい

2



データ境界・成功指標の確認MTG

使うデータ・外部送信の可否・
成功指標を確認し、PoCの範囲を決める

3



PoC契約・診断開始

準委任契約。基幹接続は参照専用から。
NDA・機密情報は覚書で対応

2ヶ月PoCへ

初回MTGで確認する4点

- ☑ 対象業務（まず1つ。部門単位）
- ☑ 利用データ（対象テーブル・機密区分）
- ☑ 外部送信の可否（クラウド利用の社内規程）
- ☑ 成功指標（削減時間・件数・現場の評価）

まずは対象業務の選定と、データ境界の確認からご一緒します。

面談のご案内

30〜60分の面談で、貴社の構成案とお見積りをお出しします

オンライン（Zoom）・対面のどちらでも。ANDYの仕組みを設計したエンジニアが同席します

自社への導入をご検討の方

事業会社・医療機関の情報システム部門・DX推進部門

面談でお出しするもの

1. 最初に作る1本（対象業務）の候補
2. 貴社の構成案（置き場所とデータの境界）
3. 構成ごとのお見積りとPoCの進め方
4. 実際の画面でのデモ

提案・協業をご検討の方

SIer・販売パートナー・コンサルティング企業

面談でお出しするもの

1. パートナーとKOSの役割分担
2. 貴社のお客様に合う提案の型
3. パートナー仕入れの考え方
4. お客様との共同PoCの進め方

はじめ方

体験デモ：andy-ai.jp/experience/（ブラウザでそのままお試しいただけます）
面談のご予約：andy-ai.jp のフォームから（ご希望の日時とテーマをお書き添えください）

資料ではお伝えしきれない「貴社の場合」を、面談でご一緒に整理します。